

平成29年6月5日(月)

老球の細道332号

アイデアのひらめき

会津バスケットボール協会 室井 富仁

古代ギリシャの植民都市であったシラクサの王ヒエロン2世が金細工師に金を渡し、純金の王冠を作らせた。ところが、金細工師は金に混ぜ物をして、王から預かった金の一部を盗んだという噂が広まった。そこで王は、アルキメデスに王冠を壊さずに混ぜ物がしてあるかどうかを調べるように命じた。アルキメデスは困り果てたが、ある日風呂に入っていたところ、水が湯船からあふれるのを見て、入浴中に浴槽につかった自分の体と同体積の水がこぼれて体が軽く感じられるのに気づいた。その瞬間、「アルキメデスの原理」のヒントがひらめいて、王冠に銀が混じっているのを見抜いたと言われる。このとき風呂からとび出したアルキメデスは「ユリイカ(わかったぞ)！」と叫びながら裸で街の中を走ったエピソードはあまりにも有名である。

一方、中国は宋の時代、歐陽脩という学者が、アイデアをひらめかせるのには「ここではない」として、三つの場所を書き残した。それは「三上」として今でも語り継がれている。三上というのは、馬上(移動中)、枕上(布団の上でうとうとしている時)、廁上(トイレの中)の三ヶ所をさす。この三つの場所は、どれも人間があらゆる物事から解放され心からリラックスできる場所である。行動は停止していても、脳とじっくり対話している時にアイデアというものは突然ひらめくようである。ちなみに、私は行動中であるが、単純反復運動の「ジョギング、ウォーキング中」がプラスされる。

もちろん、ただ単に風呂に入れば、トイレにいればアイデアがひらめくわけではない。それだけでは風呂では汗、トイレでは排泄物しか出てこない。ひらめくにはひらめくための前提状態がある。日々の生活で頭の中が「常に好奇心や問題意識をもつ」「色々な角度から物事を見る」「そのことばかりをずっと考える」等の状態になっている時がひらめくタイミングのようである。

何事も教科書通り、マニュアル通りにやることに疑問を感じなければ「ひらめき」などは無用。しかし、物事を面白くしたり、新しいことを考え出したり、困難を克服するためにはアイデアが必要になる。アイデアを産み出すにはひらめきを呼び起こす必要がある。かつて体育の授業において大人数をスムーズに動かせるにはどうしたらいいか。保健の授業で生徒を「寝たきり」にしないためにはどんなリハビリ話をしたらいいか。今はバスケットボールの講習会において小、中学生が理解できるギャグをどう話すか。バスケットボールオフェンス戦術「ピック&ロール」の新しいパターンは。毎日アイデアを産むための戦いである。そして、それがひらめいた時の喜びは何にも変えられない極上の喜びとなる。

オレ流のひらめきパターンが最近出来てきた。無から有は産まれない。今あること、今あるものをヒントに考えに考え抜いた後、ふと余裕ができた時、ある日突然ジャジャジャーン。目先のことに追われ余裕のない生活をしている時はひらめきマンは現れない。余裕、ゆとりが大切だと思う。そして①物事を色眼鏡で見ない。先入観を持たない②常に疑問(?)を持つ③感動して驚き、新鮮な気持ちで対応④視点を変えて見る等。

残り少ない人生、アイデアがひらめき、何かにときめき、自分自身がきらめきたい。筋肉「ムキムキ」は加齢とともに終わった。これからは「メキメキ」で。なんちゃって。